

～広報・みずかわ～



国土交通省 岩手河川国道事務所
水沢出張所 (令和2年2月)

奥州市水沢東大通り1-2-14

TEL : 0197-24-4173 FAX : 0197-22-8045

『広報・みずかわ』は、水沢出張所管内（花巻市～奥州市）の北上川に関わる様々な取り組みや活動をお伝えします。



北上市黒沢尻地区における特殊堤 リニューアル改修工事について



古来より川はただ流れるにとどまらず、生活物資の流通、そして流域の生活文化である様々な情報交換が行われていました。北上市を南北に縦断する東北の大河「北上川」にもこれを語る大いなる歴史が存在しています。

江戸初期から北上川は南部藩と伊達藩の廻米の輸送ルートであり、中でも北上市の黒沢尻地区は南部藩の廻米積出港として三五〇俵積の大型帆船「ひらた船」と百俵積の小操船が多数行き交い、活況を呈していました。明治に入り陸路を中心とした交通イノベーションにより次第にその賑やかさは薄れてきましたが、その後百年を経過しても、北上川はその悠然たる流れを保ち続けています。

左岸側の展勝地に大正9年、和賀展勝会により数千本の桜が植えられ、この桜も北上川に見守られながら育ち、いまでは東北有数の桜の名所として内外に認められています。

現在、右岸側の黒沢尻地区において、530mにわたる老朽化した特殊堤（鉄筋コンクリート製の壁状堤防）の改築工事を進めており、展勝地開園100周年を迎える2021年に間に合うよう、完成をめざしています。地域の発展と、皆様のより安全な生活を守るため、工事へのご協力をどうぞ宜しくお願いいたします。



間もなく開園100周年を迎える北上展勝地



©北上市役所

管内の橋梁紹介 ～重染寺橋（人首川）～

岩手を代表する米どころ、奥州市江刺。その中央を流れ、大地と人々の心を潤してきた人首川。源流である江刺米里（旧人首村）に伝わる伝説では、征夷大将軍坂上田村麻呂が悪路王（あくろおう）を討った後、その弟大武丸（おおたけまる）の子である人首丸（ひとかべまる）が抵抗を続けたが、大森山で討たれたとされ、その名が川の名前として残っています。

平成元年6月に「ふるさとの川モデル河川」に指定され、写真の重染寺頭首工界隈では、「中の橋」・「大橋」などとともに関川空間の一体的な整備がなされました。川沿いに、明治時代の擬洋風建築物である旧岩谷堂共立病院があり、景観調和がとられた重染寺頭首工、街路灯のとんがり帽子が並び、遊歩道の散策や憩いの場として市民に親しまれています。その上流には、桜の名所である向山公園と奥州藤原ゆかりである館山史跡公園を結ぶ「夢乃橋」があり、種山高原や奥州市街地、焼石連峰の山々を一望することができます。



夢乃橋から眼下の重染寺頭首工と美しい夕日に照らされた江刺の市街地を望む。



戦後のラジオドラマ「鶴の鳴る丘」のモチーフとなった旧岩谷堂共立病院（右側）

◆今年は本当に雪の少ない年でしたね。暖冬の影響で桜の開花もだいぶ早まる予想だそうです。暖かい春はもう近くまで来ています★